

時 空 読 本

2017
July No. 23
Jikūdokuhon

特 集

医療・介護
高齢者のすまい
を考える

地域ニーズにあった
「医療・介護」を提供する

島の病院おおたに



病院とすまいを複合化 地域ニーズと時代の変化に対応できる 独自の「地域包括ケアシステム」を構築



医療法人歓喜会

辻外科リハビリテーション病院

住みなれた街で
継続した医療と介護を提供
機能回復・機能維持のための
多様なリハビリテーションを実施

医療法人歓喜会は、大阪の天王寺区で地域の皆様が、生まれた街で住み続けることができるように「医療」・「介護」・「予防」・「住まい」・「生活支援」の継続的サービスをグループ法人で提供するために、医療と介護の複合ビルを建設しました。

低層階には病院の「外来・検査機能」と「通院患者用リハビリスペース」、「通所リハビリテーション」（以下デイケアという）を設け、上層階には、「認知症対応型共同生活介護」（以下グループホームという）2ユニットと「サービス付き高齢者向け住宅」（以下サ高住という）を配置しています。屋上にはテラスを設け季節の良いときには園芸を楽しむこともできます。普段の生活のなかでの健康管理、健康維持から、入院、退院後の機能回復のサポート、高齢になり一人暮らしが不安になった場合にも安心して継続的な治療と介護、生活支援を受けることができます。



1階：外来・検査



2階：外来リハビリテーション



3階：通所リハビリテーション

相本 正浩
専務取締役



地域ニーズと 時代の変化に対応 救急医療から整形外科・ リハビリテーションへ

大阪の市街地に位置する辻外科リハビリテーション病院は、周辺公立病院等からの急性期治療後の「回復期」治療を中心とした整形外科とリハビリテーションに特化した病院を運営しています。

地域ニーズ、時代の変化に対応しながら、今後の病床機能分化のなかで「回復期リハビリテーション病床71床」を、安定、継続運営するために、外来機能とリハビリ機能を充実させるとともに、新たに「高齢者の住まい」として、グループホームとサ高住を合築し、独自の「地域包括システム」を構築しました。



リハビリ機器（レッドコードやマシン）を活用した通所リハビリテーション

継続したリハビリ提供の ための高齢者の住まい

回復期リハビリテーションで治療を受けるには、対象疾患ごとに決められた期間（1～2ヶ月以内）に転院、入院が必要です。また疾患別に、入院期間（60日から最大180日）が決めており、社会・在宅復帰の生活を不自由なく過ごせるようにリハビリテーションを行うことが重要です。

在宅復帰率によって入院基本料の算定が行われるため、在宅復帰率を向上させるこ

とも運営としては考慮する必要があります。自宅へ戻られる場合は在宅での医療・看護を訪問看護や訪問リハでサポートすることとなります。単身高齢者のかたは、生活支援を必要とする場合も多く不安を抱えながらの退院は難しい場合があります。

歓喜会では、退院後のリハビリを継続できるしくみとして通所リハビリテーションやデイサービスを併設し、継続的な機能訓練が提供できる環境を整備しました。

歓喜会では、「介護老人保健施設」をすでに運営しており、介護と医療的な支援が必要なかたの入所が可能です。

さらに今回の増築で、患者の在宅復帰を手助けする役割と地域の高齢者のニーズに対応するために「高齢者の住まい」を病院に合築しました。

医療施設と居住系施設の階段・エレベーターは、双方の施設基準を満たすように配置と仕様を工夫しました。

上階のサ高住からエレベーター1基で3階のデイケアや1階の外来受診が安全に効率よく利用できます。

ただし、医療施設と介護・居住系施設（サ高住・グループホーム・デイサービス）は、出入口を分ける必要があり、専用のエントランスを設けました。



居住系施設（サ高住、グループホーム）デイサービスの専用エントランス

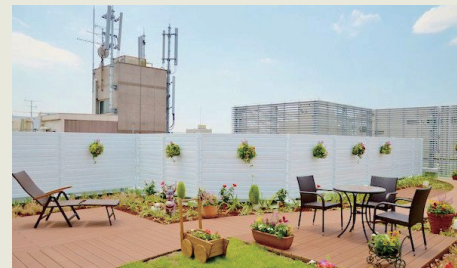
地域・入居者ニーズにあった 高齢者の住まい

高齢者の住まいは、部屋の広さ、住宅設備の仕様、地域性や入居者のニーズ、法人の運営方針などを総合的に検討し、いくつかのバリエーションを設けました。

18㎡～25㎡のトイレ・洗面・収納を設けた部屋と、30㎡～40㎡のトイレ・洗面・収納に介護用浴室を設けた部屋の大きく二つのタイプがあります。



高級感のあるサ高住の談話スペース



屋上テラス

医療・介護の連携のための 高齢者の住まい

200床未満の中小規模病院で、地域医療を中心に運営を継続させる医療法人では、病院の外来及び入院機能を明確にし、回復期・慢性期の医療と在宅医療、予防に力を入れていくことが求められています。特に、入院機能の少ない病院では地域で信頼され、介護との連携や高齢者の住まいの提供が超高齢化社会に向けたあらたな取り組みになると思われます。



地域に根ざす 継続的なリハビリ戦略

医療法人社団 大谷会 島の病院おおたに

地域包括ケアシステムの医療拠点として

島の病院おおたには、広島県の瀬戸内海に浮かぶ江田島にある病院です。

約70年にわたって島の総合病院のような存在として、江田島の人々の様々な医療ニーズに答え、島の医療を支えてこられました。

病棟の構成は、隣接中核都市である呉市にある病院から、急性期から回復期に移行した患者を受け入れるため、回復期系及び療養型の構成となっています。



江田島は広島港からは高速船
呉市からは陸路でつながっている

また島には同規模の病院が他に1施設しかなく、島の地域包括ケアシステムの医療拠点としての役割も担っています。

そのような状況からリハビリの観点からみると、在宅復帰へ向けてのADL機能の向上を目的としたリハビリから、在宅復帰を果たされた方の機能維持・改善を目的とした、多種多様なリハビリを提供する必要がありますという状況に置かれています。

リハビリをより身近に リハビリ室の分散配置

様々なリハビリを提供する島の病院おおたには、各種リハビリ室を利用者の周辺に分散配置するという方法をとられました。

通院患者は1階外来リハビリ室を利用



病棟内リハビリ室

玉井 英登
チーフアーキテクト
一級建築士



します。1階外来リハビリ室では外来の患者のみに対応します。

病棟階ではフロア中央のリハビリスペースを中心にリハビリ諸室が分散配置されており、入院患者は各所のリハビリ室でリハビリを行います。これは近年高まっている病棟内リハビリテーションの考え方で、訓練の場と生活の場のギャップを取り除き、社会復帰後に必要なQOLの向上に寄与する環境づくりを狙いとしたものです。

毎日のトイレを リハビリに

島の病院おたにでは、どのような状態の方でも極力自分の力でトイレに行くことで、その行動が日常的なリハビリとなるとの考えのもと、様々なタイプのトイレを配置しています。

病棟内にはまずフロア中央部に男女の集合トイレを設置。限りなく在宅復帰に近い方はこちらのトイレを利用します。

車椅子トイレは、病棟内に分散配置されています。病室から4～5m程度移動可能な方はこのトイレを積極的に利用してもらいます。

病室内トイレは、病棟内の個室の約40%に個室トイレが設置されており、ベッドから2m程度移動可能な方はこの個室トイレを利用してもらいます。また個室トイレの設置されていない病室には、ベッド



ベッドサイド水洗トイレ

サイド水洗トイレ(TOTO株)が設置できるようになっています。このベッドサイド水洗トイレは、専用の給排水配管を設置することによって、ベッドサイドで利用できる製品です。

ベッドから体を起こし、トイレまで1～2歩移動可能な方はベッドサイド水洗トイレを利用してもらいます。トイレがベッドサイドにあるため、身体が不安定な時期であっても患者が自ら移動してトイレを使用しようという気持ち生まれ、早期離床に繋がるものと考えています。

出かけてみたくなる 場所の演出

病棟での歩行訓練は重要なリハビリの一つですが、島の病院おたにではただ漫然と歩行訓練を行うのではなく、自主的な移動を促すため、魅力的な場所を演出する工夫を複数実施しています。

病棟廊下は回廊型になっており、歩行訓練の場として活用しやすい形状となっています。回廊に面してはベンチや食堂が配置

されており、入院患者同士が集う場になっており、歩行の目的地の一つとなっています。

各病棟階中央のリハビリスペースにはリハビリ専用の階段が設置されており、4階の食堂とオープンテラスに繋がっています。この4階の食堂・オープンテラスは前面に海が見渡せる快適な空間となっています。階段は自由に行き来することが可能で、上階に魅力的な場所を設けることによって、患者の自主的な移動を促します。

5階には海が見える見晴らしのいい屋上庭園があり、そこに入院患者専用の花壇とリハビリ専用の屋外歩行訓練場が設けられています。屋外歩行訓練場には、島の住宅によく見られる飛び石、玉砂利、芝生等が設置されており、在宅復帰に向けて自宅に近い環境での訓練が可能となっています。



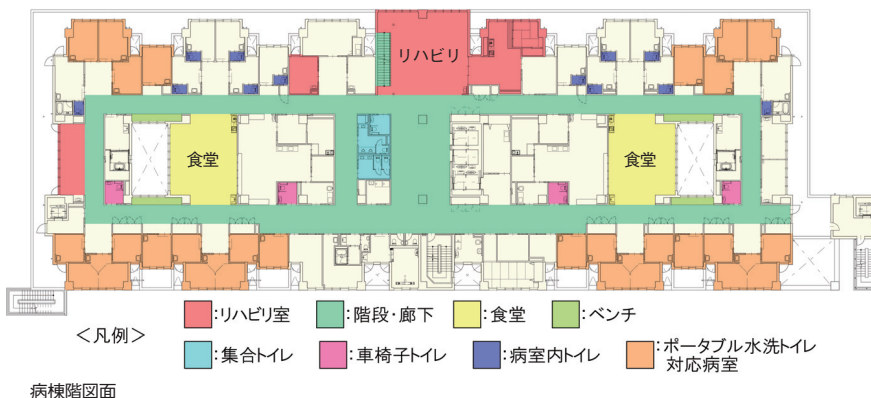
リハビリ専用階段



4階食堂



オープンテラス



医療・介護・福祉・住まい ゆう建築設計の取り組み

医療・福祉の専門設計事務所が提案する建築セミナー

ゆう建築設計では、医療施設と福祉施設を専門に建築設計を行っています。

医療に関しては、中小病院、精神科病院、透析医療機関の各分野別にセミナーを開催してきました。福祉に関しては、特別養護老人ホームを運営されている社会福祉法人向けのセミナーが中心でした。昨年は、知的障害者施設運営者向けの第一回セミナーを開催し、全国からたくさんの方々にご参加いただきました。医療と介護の一体的な改革が進むなか「高齢者の住まい」のご相談が増えました。

今年は、医療と介護の連携、医療法人が行う高齢者の住まいについてセミナーを開催します。

■ 医療法人向けセミナー

医療法人向けセミナー

透析医療機関向けセミナー

精神科病院向けセミナー

■ 社会福祉法人向けセミナー

特別養護老人ホーム 運営者向けセミナー

知的障害者施設 運営者向けセミナー



2016年 透析医療機関向けセミナー 会場風景



2016年 知的障害者施設 運営者向けセミナー 会場風景

作品紹介 (医療施設)

■ サービス付き高齢者向け住宅へ

転換可能な病棟計画



医療法人社団 厚済会 横浜じんせい病院

■ 敷地形状を生かした

スタッフ動線に配慮した放射状の平面計画



医療法人社団仙齡会 はりま病院

2017 年セミナーのご案内

2017 年 7 月 22 日 (土) 病院 新築・増改築セミナー
地域ニーズにあった「医療・介護」を提供するために
新しい医療施設、介護施設づくりに取り組む最新事例を紹介
・ケアミックス+介護連携+高齢者の住まい
・地域に根ざす継続的なリハビリ戦略

2017 年 7 月 29 日 (土) 高齢者福祉施設 新築・増改築セミナー
[新築事業]
・社会ニーズに合わせた介護施設「サービスの複合化・多機能化」
・社会福祉法人が行う「高齢者住宅事業」
・社会法人が行う「医療+介護」への取り組み
[改修事業]
・老朽化した「福祉施設」の大規模リニューアル
・多床室特養プライバシー改修「できるケース」と「できないケース」

2017 年 8 月以降の開催予定
精神科病院向けセミナー / 知的障害者施設運営者向けセミナー

ご相談ください

ゆう建築設計では、医療、介護施設の企画立案、行政協議、設計監理まで、豊富な経験と専門的な知識によって幅広いご相談に対応しております。

ホームページには、これまでの実績のほか、計画を進める上で参考になるたくさんさんの情報を公開しております。ご希望に応じ、これまで開催したセミナー資料等もご送付させていただきます。

まずは、お問い合わせください。

株式会社ゆう建築設計

本 社 担 当 相本正浩

TEL : 075-801-0022

QR コード

ゆう建築設計ホームページ
<http://www.eusekkei.co.jp>



作品紹介 (高齢者の住まい)

■ 機能性を重視し効率的な平面計画を実現
労働環境向上のために企業内保育所を隣接



医療法人社団愛明会 明石回生病院

■ 医療法人社団 恵寿会
サービス付き高齢者住宅「恵寿」



■ 社会医療法人社団正峰会
住宅型有料老人ホーム「きょうらく」



相本 正浩
専務取締役



玉井 英登
チーフアーキテクト
一級建築士



わたしたちが
医療施設を
考えています

本 社



砂山 憲一
代表取締役
一級建築士



相本 正浩
専務取締役
一級建築士



河井 美希
チーフアーキテクト
一級建築士



玉井 英登
チーフアーキテクト
一級建築士



加藤 クリム
一級建築士

東京支店



河津 孝治
常務取締役
一級建築士



矢木 智之
チーフアーキテクト
一級建築士

株式会社 ゆう建築設計

本 社 京都市中京区堀川通錦小路上ル四坊堀川町617番地 〒604-8254
TEL 075-801-0022 FAX 075-801-8290
E-Mail : office@eusekkei.co.jp
東京支店 東京都港区西新橋2丁目23-2 日比谷パークビル7F 〒105-0003
TEL 03-6721-5430 FAX 03-6721-5431
大阪支店 大阪市中央区道修町4丁目5-10 サンビル6F 〒541-0045
TEL 06-6232-1533 FAX 06-6232-1536

<http://www.eusekkei.co.jp>



病院 新築・増改築セミナー

大阪：7月22日（土）13：30～17：30

※詳しくは、同封のセミナーのご案内をご確認ください。